

2023

4-5月

はしかけニューズレター

2023年度 第1号 通巻170号

2023年(令和5年)4月1日発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 中川)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

～ 目 次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
- (4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
- (7) くらしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) ザ! ディスカバはしかけ
- (10) 里山の会 (11) 植物観察の会 (12) たんさいぼうの会 (13) 田んぼの生きもの調査グループ
- (14) タンポポ調査はしかけ (15) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
- (17) びわたん (18) ほねほねくらぶ (19) 緑のくすり箱 (20) 虫架け (21) 森人 (22) 琵琶湖梁山泊
- (23) サロン de 湖流 (24) 水と暮らし研究会 (25) 海浜植物守りたい

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報

4. 生活実験工房からのお知らせ

5. その他の事項

会員数 ... 404人

グループ数 25グループ

(2023年3月31日現在)

1. 事務局からのお知らせ

今年は春の訪れが例年になく早く、人だけでなく自然界の色々な生き物も驚いているかもしれません。

3月には、はしかけ登録講座をオンラインにて行いました。今回の講座では新たに18名の方の入会希望がありました。3年間のコロナ禍を抜け、新しい仲間と共に2023年度の活動が開始できることを事務局も嬉しく感じています。

さて、事務局より3点連絡です。

■はしかけ制度会員登録の更新手続きについて

年度末に更新手続きをお忘れで、2023年度も継続してはしかけ活動される方は、更新手続きが必要です。更新受付票の返送とボランティア活動保険への加入をお願い致します。ボランティア活動保険の加入については、4月以降に加入される場合は、博物館での加入手続き代行は行っておりませんので、個人での加入手続きをお願いします。お近く(市・町・県)の社会福祉協議会にて、「ボランティア保険」の加入手続きを行ってください。その際、「主な活動内容」欄には「琵琶湖博物館はしかけ 観察会・課外活動」、「主な活動場所」欄には「琵琶湖博物館」とご記入ください(はしかけ以外の活動団体ですでにボランティア保険に加入されている方は新たな加入手続きは不要です)。また、4月1日以降の更新手続きについては、手続き希望者が一定数まとまった段階で行いますので、更新受付票を送付頂いてから名札等をお送りするまで、1か月程度の期間が空くことがありますので、ご了承ください。

■2023年度 第1回はしかけ登録講座

2023年度第1回はしかけ登録講座を下記日程でオンラインにて開催予定です。お近くにはしかけに興味を持っている方がいらっしゃれば、お知らせ頂ければ幸いです。

日時: 2023年4月30日(日)～2023年5月14日(日)のうち任意の2時間程度

■ギャラリー展「プッカプカ美小生物展」について

「微小生物×アート!」をテーマにしたギャラリー展「プッカプカ美小生物展」を行います。微小生物を題材にしたポップなキャラクターたちと、本格的な微小生物の日本画や、巨大ミジンコ「ノロ」のカラダの秘密を見てもらうことをコンセプトにしています。期間は2023年5月5日(金)～6月11日(日)の予定です。ぜひご覧ください。

(中川 信次)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 22名】

グループ担当職員: 田畑 諒一、川瀬 成吾

【活動報告】

■2月19日(日) 勉強会(講演)「ホンモロコ自然史～小さなコイ科魚類の见えない世界～」 講師: 藤岡康弘氏 場所: 琵琶湖博物館会議室 参加者: 22名

朝から雨が降り足下の悪い中、久しぶりの参加者を含め、たくさんの方々が会場の琵琶湖博物館会議室に集まりました。講師はうおの会の会員でもあり、元滋賀県水産試験場長でビワマス等の滋賀の淡水魚に関する著作物もたくさん出しておられる、藤岡康弘氏。氏の今までのホンモロコについての研究から、様々なお話をいただきました。以下に要点を記します。

- 1 受精と発生の過程(光周性、全雌化の研究)
- 2 ふ化するの、日没直後
- 3 性が決まる(生殖腺の分化はふ化後50日くらいまでにおこる、核型 $2n=50XY$ 型、魚の多くは核型だけでは決まらない、ホルモンによる性転換が可能、全雌作成の手順、雌を雄に性転換する、環境による性決定(ふ化温度、個体密度、pH))
- 4 琵琶湖のホンモロコの性比は水温によって決まる
- 5 琵琶湖には偽雄がいる(核型は雌xx)
- 6 1年で成熟する
- 7 小型魚は雄、大型魚は雌、大きく成長する個体は雌、小さい個体は雄になった方が子孫を増やすのに有利
- 8 水面上に産卵される卵が多くあるが、水位が下がると死卵となる

講演後、質問が多数出て、とても盛り上がりました。藤岡さんお忙しい中ありがとうございました。(報告: 水戸基博)

【今後の予定】

3/26(※最終日曜日)の午後から総会を行い、次年度の活動内容について決定します。詳細は開催案内メールにてお知らせします。



(2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ担当職員: 橋本 道範

【活動報告】

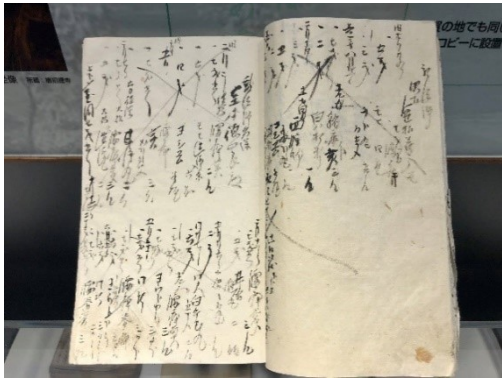
■令和5年2月11日(土) 場所: 甲賀市水口町 参加者: 2名

1月に開かれた国の文化審議会で、忍者や山伏が関わったとされる甲賀市の「甲賀売薬の製造・販売用具」を登録有形民俗文化財に、また、ふなずし等の滋賀県の伝統的食文化の「近江のなれずし製造技術」を登録無形民俗文化財に登録するよう答申したとのニュースが飛び込んできた。

甲賀の薬業は、中世に山伏が、火伏の神・愛宕神社や疫病退散の祇園社のお札とともに広めたとされ、甲賀地域の産業として発展した。配札が禁止された明治以降は「おきぐすり」として地域に定着し、配置売薬として富山や奈良に並ぶものである。

甲賀准四国を設置した福野家も、江戸時代は愛宕神社の配札とおきぐすりなどを生業とし、明治以降は、その知識を活かして、医者として地域医療に関わってきた。

甲賀市で開催された記念講演会には、山伏をルーツとする家系の聴講者が多数参加した。



■令和5年3月14日(火) 場所:大津市打出浜 参加者:1名

「近江のなれずし製造技術」登録記念講演会で、橋本特別学芸員が「フナズシ研究最前線」をテーマに講演された。ふなずしの文化は湖北だけでなく、甲賀地域にも伝わっていて地域による製造技術に差がある。



【活動予定】

- ・「甲賀准四国八十八ヵ所」に関連した調査活動として、一ヵ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ・「近江 巡礼の歴史勉強会」としての纏め作業を開始する。

(福野憲二)



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ担当職員: 桝永 一宏

【活動報告】

■ 2月19日(日) 博物館 参加者 3名

おののオープンラボにてスケッチ。博物館の敷地内で吟行も行いました。

■ 3月19日(日) 博物館 参加者 3名

おののオープンラボにてスケッチ。博物館の敷地内で吟行も行いました。

【活動予定】

4月23(日) 西教寺付近(大津市)

活動時間 10時30分～(15時)

季節が良くなりましたので西教寺付近を散策の上、スケッチを行います。また、希望者で吟行句会も行います。

5月21(日) 堅田(大津市)

活動時間 10時30分～(15時)

堅田の浮御堂周辺や湖畔を散策の上、スケッチを行います。

また、希望者で吟行句会も行います。

※持ち物/スケッチブック、鉛筆、水彩絵の具等、スケッチの道具。

俳句をされる方は、それぞれ吟行に必要なものをお持ちください。

※集合時間、集合場所につきましては、参加者希望者にお知らせします。

<びわ博 de 俳句>

3月19(日) 晴

生活実験工房のそばの、常緑樹の葉が春の光にキラキラと輝いている。

畦には土筆も。樹冠トレイルのあたりでウグイスの声がしきりに聞こえていて春の訪れを実感。

「暑さ寒さも彼岸まで」といわれるだけあって、屋外はジャケットがいらないくらいのあたたかさ。

砂地の灌木ではカワラヒワを、また湖畔のドロヤナギでは、オスのジョウビタキとシジュウカラを見かける。

この日に会った季語は、風光る、ウグイス、土筆、(対岸の山の)残雪、紅椿、落椿、犬ふぐり、蘆の芽、クローバー、たんぽぽ、蓬、茨の芽、春の鴨、鳥の巣など。



(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ担当職員: 橋本道範

【活動報告】

■2月1日(水) 参加者:5名

コンニャク作り。工房の中川さんにご協力いただき、4kgのコンニャク芋からコンニャクを作りました。

■2月18日(土) 参加者:3名

地機1人目が織り終わったので、次回製織者のために管巻作業(ヨコ糸を管に巻く)をしました。

■3月1日(水) 参加者:5名

地機織りのため、管巻作業。また、タテ糸整経時に余った糸をヨコ糸として使えるようにこちらも管巻しました。

■3月18日(土) 参加者:2名

糸紡ぎなど各自の作業。地機の次回製織者はまだ未定。

【活動予定】

■織姫の会

4月15日(土)、26日(水)、5月10日(水)、27日(土)、6月7日(水)、24日(土)、7月12日(水)、29日(土)

8月はお休みです。



コンニャク作り

(辻川智代)



(5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ担当職員:里口 保文

【活動報告】

■ 2月の活動

○第36回地学研究発表会 (参加者7名)

日時:2月19日(日) 12:55~17:00

会場:琵琶湖博物館セミナー室

地学の幅広い分野における、最新の研究成果を13件拝聴しました。

■ 3月の活動

○琵琶湖博物館の石調べと方解石の観察 (参加者8名)

日時:3月18日(土) 13:30~16:00

場所:琵琶湖博物館 実習室1 館内 展示室

1. 方解石の簡単薄片を見てみよう

方解石を粉々に砕いて、白色の粉をスライドグラスの上に載せて、偏光顕微鏡で観察しました。持ち寄った石も同じようにして、その中の方解石を確認しました。岩石薄片を作製するのは、大変手間のかかる作業ですが、驚くほど簡単に方解石の確認でき、歓喜の声が上がりました。

2. 烏丸半島の石調べ

博物館内の石材調べをしました。何処にどんな石材が使われているか、石材カタログと照らし合わせて調査しました。また、展示室の石も見て回り、皆で情報交換しました。

■今後の活動予定

4月2日(日) 野外調査 流紋岩質火砕岩類、湖東地域の岩石 (タイトル変更の場合有り)

5月 野外調査 瀬田川鹿跳橋付近の調査 (日程未定)



(6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:金尾 滋史

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



(7) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:中川 信次

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



(8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6 名】

グループ担当職員:山川 千代美

【活動報告】

■勉強会「粒度表の作成」

日時:1月22日(日) 13:00~17:00

場所:琵琶湖博物館 実習室1 参加者:6名

活動内容:去年の10月に開催されたびわ博フェスのワークショップでも行った粒度表作りを行いました。今回は、野外で地層の観察を行い柱状図の作成に活用できることを目的に、はしかけ会員の分を作成しました。

ワークショップの準備段階で、ボンドの種類や粒度表の台はどの材質が適しているか、試行錯誤を重ねてきたことや、実際にワークショップで作成したこともあり、粒度表の作成は非常にスムーズに進めることが出来ました。

今回の活動であらためて感じたことですが、何回も試行錯誤を重ねて繰り返し作業を行うことで動きが洗練され、新たなアイデアが浮かんでくることに気づきました。具体的には、粒度表の台に粒砂を移す際には、マドラースプーンを用いると作業しやすいなど様々な発見がありました。

粒度表は作成して終わりではなく、実際に現場で使ってこそ意味があるので、今後、現場で地層の観察の際などに活用していきたいと考えています。



【各粒度の振り分け】



【粒度表の台に振り分ける作業】

【活動予定】

■多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト第十次発掘調査への参加

日時:4月22日(土)~4月30日(日)

場所:滋賀県犬上郡多賀町四手



(9) ザ！ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ担当職員:田畑 諒一

【活動報告】

■新型コロナウイルス感染対策のため、ディスカバリールームは時間入替制でディスカバリールーム(整理券)を配布した上で、火曜から土曜日(祝日含む)の開室です。

■1月28日(土)に開催予定でした、節分に関するイベント「大津絵の鬼になろう」は、降雪のため2月4日(土)に変更して開催しました。大津絵に出てくる鬼を見ながら、大勢の方が鬼のお面を作ったり、鬼の格好をしていました。

■3月4日(土)にはディスカバリールームにて「おひな様の扇を作ろう」のイベントを行いました。厚紙で扇を作りました。

【活動予定】

■引き続き、時間入替制・ディスカバリールーム制で開室曜日を制限しての開室となっています。

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽に田畑・妹尾まで声をかけてください。いつでもお待ちしております！

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましょう！

また、ザ！ディスカバはしかけでは、定期的にイベントを開催しています。



(10) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ担当職員: 美濃部諭子

【活動報告】

■2月5日(日) 蜜蝋ろうそく作り 参加者4名

蜜蝋は蜜蜂の巣の材料となるロウ物質で働き蜂の体から分泌されます。最近は蜜蝋ラップが注目されていますが、昔からろうそくの材料として利用されていました。今回は蜜蝋を使いディッピングという方法で昔ながらのろうそく作りに挑戦しました。

ディッピングは、溶かした蜜蝋に芯を浸し乾かすことを繰り返してろうそくを作る方法です。浸す回数を多くするほど太いろうそくができます。ゆっくりおしゃべりをしながら段々太くなっていくろうそくを見るのは、心が落ち着き楽しいものでした。

夏から秋にかけできた蜂蜜を採った後、残った巣を使い冬にろうそくを作る。里山の暮らしは自然資源を無駄なく使うだけでなく、時間も豊かに使えていたのかなと感じました。

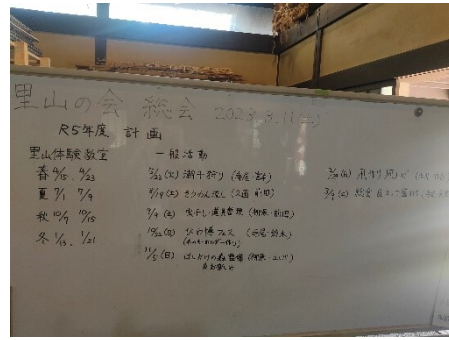


■3月11日(土) キノコの菌打ち・総会 参加者11名

里山からの恵みの一つがキノコですね。野山のキノコ狩りは楽しいものですが、専門家と一緒にないと食するのは少し……。人の暮らしの中で、キノコ栽培が始まったのはいつ頃からでしょうか。天然のマイタケは毎年同じ場所で発生するようですが、その場所は誰にも教えないとか、マツタケの場合も同じような言い伝えがあります。人が関わってキノコ栽培ができるために多くの先人が苦勞されて、現在では私たちはキノコたちを身近な食材として食することができます。

里山の会でも、10年ほど前から主にシイタケの原木栽培を行ってきました。今年も、適期である3月に10本のコナラ原木に植菌を行いました。原木に菌糸が上手く回れば、3年ほど季節の変わり目の初春と晩秋に子実体(私たちがキノコと呼んでいる部分)が芽吹いてくれます。

総会では次年度の計画を立てました。次年度は、11月に会員みんなで「はしかけの森」の整備をしようという話が出ました。いつも里山体験教室の参加者の方と一緒に整備をしたり、里山遊びをしたりしていますが、11月は会員だけでの整備&お楽しみです。コロナも落ち着いてきたので、以前のように飲食も楽しめたらと思います。



【今後の活動予定】

4月15日(土) 春の里山体験教室(下見)

4月23日(日) 春の里山体験教室(本番)

5月23日(火) 潮干狩り



(11) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ担当職員: 芦谷美奈子

1月24日夜～25日にかけての大寒波による大雪も早々と解け、山の木々は芽吹き始めようとしています。特にヤシャブシの仲間は雄花の花序を大きく開き、早いものは新芽を展開しています。花粉症のある者にとっては、スギやヒノキと共に厄介な季節です。

【活動報告】

2月 例年この月は休止

参加者 0名

3月 5日 (日) 栗東自然観察の森へお出かけ 10:00～13:00

参加者 5名

この日は、天気予報によると暖かくなるとのこと。しかし、午前中に観察時間を取ったためか気温は7～8℃、晴れてはいるが樹木に覆われているところが多く、寒い中での観察になった。

駐車場からすぐのアジサイは陰にあっても新芽が出てきていて、やはり植物は春なんだと感じながら出発。

駐車場から高所に見えていたつる植物は、カラスウリ? 結局葉や実が残っておらず分からなかった。あと分からなかったのが、変形したアオキの実。今まで変形して赤くならないものは虫こぶだと思っていたが、割ると中から透明の種子らしきものが出てきた。ここは採取禁止なので、採取できるところで実を色々採って調べてみたい。

この時期は、多くの葉が落葉していることもあって、樹皮の様子もよく見る事が出来た。ハナノキ(花はもう少しあと、3月末)の樹皮は薄い灰色で縦に薄く剥がれる、アカメガシワはマスキメロンのように浮き出た網目状。花や葉があるとそちらに目が行ってしまうのでなかなか樹皮だけを観察することがなく、何かの機会に少しずつ観ていけるようにしたい。

ウバユリ(昨年の実が立ち枯れたまま残っている、種子も確認できた)、カタクリ、キクザキイチゲは、1～3枚の葉が出ている。ノカンゾウの葉は、この時期にしては大きく伸びていた。コオニタビラコ(春の七草ではホトケノザという)をはじめとする春の七草も植えられていた。アセビ、セリバオウレン、コセリバオウレン、バイカオウレン、セツブンソウは満開、ユキワリイチゲ、ショウジョウバカマは未だ小さい蕾。ザゼンソウも展開し始めた葉の横に花を見ることが出来た。ザゼンソウの花を囲む苞は温度調整のために太陽のある南側を向くのかと勝手に思っていたが、向きは決まっていなかったように見えた。

最後に、梅林側へ下って、ウメの花やそこにあったヤマネコノメソウを観察。ウマノスズクサは未だ芽が出ていなかった。駐車場に戻るまでの道にはキチジョウソウやセントウソウの葉がたくさんあり、次回花を見られるのを楽しみにしている。

【今後の活動】

- 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。
- 外部へのお出かけの場合は、これに限らず、変則的になります。
基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行く」方向でいます。
- 4月 2日 (日) 博物館周辺、スミレなどの観察 雨天中止 13:30～16:00 ごろ
- 5月 7日 (日) 博物館周辺、樹冠トレイルの観察 雨天の場合は実習室 13:30～16:00 ごろ
- 6月 4日 (日) 水口子どもの森 ササユリなどの観察 小雨決行、ひどくなったらその場で中止 10:00～12:30 ごろ

※新型コロナウイルスの感染拡大等によっては、お休みになることがあります



(12) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 24名】

グループ担当職員 大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

影の会長が、こともあろうに日本珪藻学会会長(こちらは影ではない)に就任してしまったため、あらゆる対応が滞るようになり、活動が停滞する原因になっています。

個人活動は相変わらずゆっくりとですが進んでいます。会の活動としては安曇川(大津市・高島市)、曾根沼・野田沼(彦根市)、瀬田公園(大津市)、黒沢湿原(徳島県三好市)などの珪藻について顕微鏡写真を整理し、同定と研究論文執筆を進めています。また、個人活動として堅田内湖のヨシ茎上の珪藻や、犬上川などから出現した外来種珪藻などの研究も進んでいます。後者は報告論文を投稿して査読結果が戻ってきており、現在、査読結果に対応した修正をしているところです。

【活動予定】

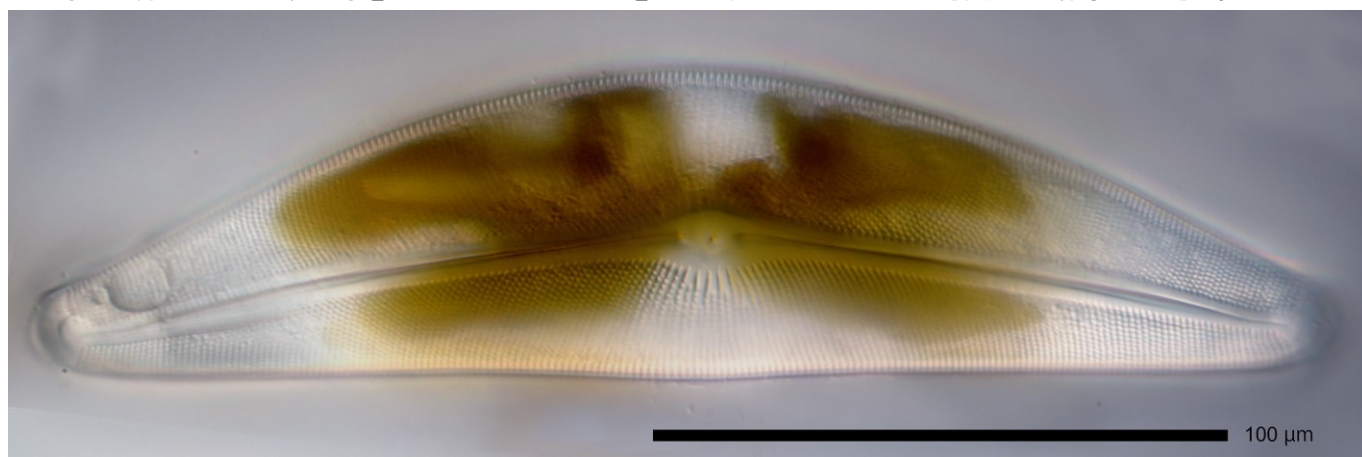
4月1日の13時30分から、琵琶湖博物館研究交流室で、第73回たんさいぼうの会総会を開催します。実に久しぶりの、対面での開催です。次のニューズレターで報告します。

新型コロナ改めコロナ 2019 の感染状況が落ち着いてきたので、しばらく行っていなかった「たんさいぼうの旅」を復活したいと思います。今のところ福井県立年縞博物館の見学と、西坂さんのフィールドである千種川(兵庫県)の訪問を計画しています。また、珪藻植生報告で顕微鏡写真を一定のスペース内に効率よく配置する「珪藻の詰め込み教育」を計画しています。個人研究は、これまでと同様に進めていきます。

【影の会長から皆さんにお願い】

昨年5月、高島市朽木地域の安曇川に、北米原産の外来種珪藻であるミズワタクチビルケイソウ(*Cymbella janischii*)が侵入しているのが確認されました。本種は繁茂すると茶色味を帯びた白いミズワタ状の群落となり、川底を広く覆います。そうすると河川の生物群集に大きな影響が及び、実際にアユが寄りつかなくなることが報告されています。また河川景観の悪化や網や釣り糸に絡まるなど遊漁への悪影響も問題になります。今年2月時点では、安曇川で本種の繁茂はほとんど認められていませんが、一般に4~5月頃に最も繁茂することもあり、いまだ予断を許さない状況にあります。

そこで皆さんにお願いです。安曇川に限らず、滋賀県および周辺府県の河川上中流部で、本種の可能性があるミズワタ状の付着物を見かけたら、是非とも採集して小瓶に入れ、琵琶湖博物館にお届け下さい。また本種の蔓延を防ぐため、河川から帰宅したら胴長靴や網などをできれば熱湯(60℃以上)に1分以上つけてよく洗い、十分に干すようにして下さい。また、その日のうちに川から川へと移動する場合には、移動前に胴長や網を現場でよく洗うとともに、胴長のフェルト部分や網などを5%食塩水に1分以上つける、よく水を切ってからアルコールをたっぷり吹きかけるなどの方法でよく消毒して下さい。



ミズワタクチビルケイソウが大繁茂した状況については、このサイトから写真や動画をご覧いただくことができます(リバーリバイバル研究所のブログ)

<https://blog.goo.ne.jp/niimuray/e/10000d5095395a6197c3791c802a0bec>



滋賀県農政水産部水産課から、ミズワタクチビルケイソウ拡大防止のための、釣り具等の消毒のお願いです。

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/shigotosangyou/suisan/325816.html>



滋賀県水産試験場から、ミズワタクチビルケイソウに対する有効な消毒方法のご案内です。

<https://www.pref.shiga.lg.jp/suisan-s/>



(13) 田んぼの生きもの調査グループ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 6 名】

グループ担当職員: 鈴木 隆仁

滋賀のソメイヨシノもちらほらと咲き始めました。まだ冬枯れの田んぼもありますが、田おこしも一部では始まっているようです。

【活動報告】

・2023 年 3 月 21 日 10:10~11:30 総会 琵琶湖博物館実習室 1

今年初めての集まりである年度終わりの総会を行いました。直前に欠席届が重なったため、参加人数は少なくなりました。簡単な自己紹介の後、山川代表より 2022 年度活動報告があり、その後次年度の活動案が出されました。大まかな案は 5 つ。例年通りの広域調査、カブトエビ調査、エビ類の飼育、京都府南部の調査、新たにヒメカイエビ調査です。このうち初めに挙げた 2 つが主に団体で行う調査になります。広域調査は東近江市の未調査メッシュ地点で 5 月中旬以降に 2 回を予定、カブトエビ調査は 6 月初めの予定です。

【活動予定】

4 月に山川代表が広域調査地点の下見をします。

5 月中旬以降の団体調査の準備として、5 月 7 日に採集瓶・調査票の用意、GPS 貸し出し、屋上飼育設備の準備を行います。詳細はメールでお知らせしますので、そのつもりで日程を空けておいてください。

※次回より会員の連絡用メーリングリストが変更されます。

会員には代表よりグループへの招待メールが届きます。

(石井 千津)



(14) タンポポ調査はしかけ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 1 名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

＜タンポポの季節到来＞

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的にしているグループです。

そろそろタンポポの季節到来です。もし西日本調査が継続するのであれば、1 年後の 2024 年 3 月から予備調査が始まる予定です。どうなるのか西日本調査の事務局からの連絡を待っていますが、調査の有無に関わらず、4 月からは在来タンポポも県内で咲きそうなので、機会があれば探してみてください。

＜「タンポポ調査・西日本 2020」の報告書はまだ届きません(2023 年 3 月現在)・・・＞

2020 年調査については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動が制限されたので、2021 年春まで調査が延長されました。滋賀県でも、2019 年 3 月～2021 年 5 月分の 3 年分のデータを事務局に提出しました。事務局に問い合わせたところ、まだ完成していないそうで報告書が届く予定は不明とのことでした。入手したら、ご協力いただいた方々に連絡します。

【活動報告】

新規の活動報告は特にありません。

【活動予定】

現時点では、特に活動予定はありません。

次回(2025 年)の広域調査に関して、まだどうなるか事務局の判断が出ていません。何か方針が決まりましたら、この場で報告いたします。

(文責: 芦谷)



※一般参加は、びわ博ホームページからのオンライン予約制です。また 10 時から 14 時までの一日の活動としています。

【活動報告】

◆2 月の活動 2/15(水) 3 組(幼児 4 名、大人 3 名)

朝空を見ると、なんと雪が降ってました。道路にも地面にも雪がうっすらと積もり、「みんな博物館まで来れるかなあ」と心配をしましたが、雪を避けてポチポチ来てくださりました。

実験工房前に残った雪で小さな雪だるまをつかって、少しずつ溶けていくの楽しんだり、ベンチに積もった雪に手形を付けてみたり、さらにホースの水で雪を溶かしたりしているうちに、(この寒さの中)水遊びに発展してと、大人は見ただけで震えました(笑)。そんな雪の間からはフキノトウが次々と芽を出して春がもうすぐ来ていることも感じました。人間よりも自然はもっともっと早くから冬から春を感じているのですね。

久しぶりに、博物館前のホワイトビーチに遊びに行きました(ここもまた冷たい風が吹いて、大人は寒くて震えるのですが)。子ども達は雪のような広い砂に走ったり、砂山を作ったりと元気そのもの。

最後は実験工房の鉢植えの綿毛をフワフワ飛ばして捕まえて遊びました。大人はツルモウリンカという植物名に???でしたが、子どもは雪でも水も砂もホウキもドングリもツルモウリンカも、何でも遊んだ 1 日でした。

◆3 月の活動 3/15(水) 7 組(幼児 8 名、大人 8 名)

2 月とはうって変わって、真っ青な空、暖かい春の 3 月でした。田んぼの畔には土筆が、オオイヌノフグリの青い花が、それらの間にはナナホシテントウが歩き、黄色いキタキチョウが飛んでました。ナナホシテントウを捕まえてルーペで観察したり、土筆や花を摘んでみたりと春を感じさせる日、雪の前に取ったフキノトウはもうつぼみになり、花が咲きそうでした。

ガチャコンポンプは今日も人気。何度も呼び水をしてガチャガチャと動かしても、なかなか水が出てこない、けどお母さんと一緒にガチャガチャすると、やっと出てきました。バケツにたまった水で遊んで、服が濡れるのを今回も全く気にせず(お母さんたちはヒヤヒヤしたり、笑顔で見守ったり)、楽しみました。



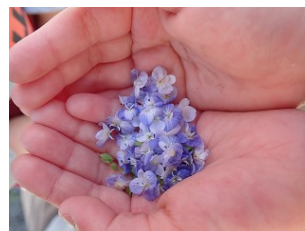
2 月 ルーペで苔と雪の粒を観察



2 月 寒いホワイトビーチで



3 月 土筆の間で生き物探し



3 月 青い花をたくさん摘みました

◆今年度もありがとうございました。

コロナ禍も 3 年になり、年度当初はちこあその活動ができず難しいこともありました。しかし、状況も落ち着き、子どもの自然遊びの価値も確保されるようになってきました。来年度も楽しい親子活動にしていきたいと思います。よろしくお願いします。

【今後の活動予定】びわ博ホームページで 2 か月前から参加予約ができます。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
4 月	4 月 19 日(水) 10:00-14:00	ちこあそ 4 月	定員 10 組 予約制です。びわ博イベントHPからお申し込みください。 毎月おおよそ第 3 水曜日に行っています。(8 月はお休み) コロナ禍の実施についてはその都度判断します。
5 月	5 月 17 日(水) 10:00-14:00	ちこあそ 5 月	ルーペでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ポチポチ過ごします。

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



(16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 【活動報告日の活動会員数(のべ) 6 名】

グループ担当職員: 大塚 泰介

【活動報告】

■ 3月5日(日) 参加者: 6名 + 学芸員 2名

今回は烏丸半島の船着き場と博物館の観察池のプランクトンを観察しました。今回は微細な藻類が発生していたようで初めて聞く名前も多くありました。また普段琵琶湖でよく見るスタウラストルムも今まで同定されてきた種とは異なるそうです。動物プランクトンはワムシが多く発生していました。また固着生物のコケムシの切れ端がサンプル中に混ざっていました。プランクトンネットで水中を引いていても底生動物が入ってくることはよくありますがコケムシの生体が入ってくることは珍しいです。



ハネウデワムシ



チャミドロコケムシと
その体表に付着する Ptygura



ミズクサワムシ

動物	植物	観察: 〇	イロ
スネケリア	ハリイソウ / マルケハハリイソウ	クリソコックス	クリソコックス
コメダ	ホシバクイソウ (ホシバクイソウ) / ホシバクイソウ	クリソコックス	クリソコックス
Enicostema sp.	クリソコックス	クリソコックス	クリソコックス
マダモリ	ササハバクイソウ	クリソコックス	クリソコックス
ハネウデワムシ	アウラコセウ / アムビギア / ガラヌラ	クリソコックス	クリソコックス
ドロワムシ (S. oblonga)	オビケイソウ	クリソコックス	クリソコックス
ソラシロ	イグサノオビシ	クリソコックス	クリソコックス
ゲンシシロ	ミクスアリアス / ハナ	クリソコックス	クリソコックス
ゲンシシロ	サヤノナギ / ビタヤノナギ	クリソコックス	クリソコックス
ゲンシシロ	スタウラストルム / プラント	クリソコックス	クリソコックス
ゲンシシロ	マロメナス	クリソコックス	クリソコックス
ゲンシシロ	ギム / テイノム	クリソコックス	クリソコックス
ゲンシシロ	コメダ	クリソコックス	クリソコックス

今回の観察会中に見つかったプランクトン



観察会の様子

【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方ははしかけ代表アドレスまでお問い合わせください。



(17) びわたん 【活動報告日の活動会員数(のべ) 8 名】

グループ担当職員: 安達克紀

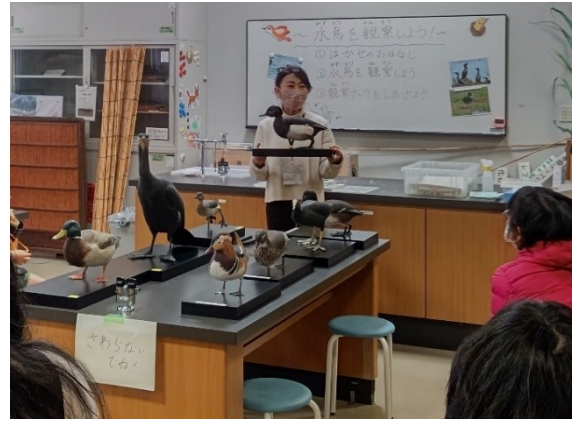
【活動報告】

■ 2月11日(土) 水鳥を観察しよう!

わく探の冬と言えば水鳥プログラムです。亀田学芸員にお越しいただき、

- ① 実習室で観察に使う双眼鏡の使い方を聞き
- ② C 展示室水鳥標本のコーナーで種類の見分け方ポイントを教えて頂き
- ③ 屋外展示展望デッキで水鳥を観察し
- ④ 本日の水鳥を一種スケッチする

の流れで実施しました。琵琶湖の水鳥を展望デッキから肉眼で見ると種類を判別出来なかったのですが、双眼鏡や望遠鏡を使うと、頭の形やくちばしの色、体の模様など細かな特徴が分かりました。亀田博士の見分けるポイントを手がかりに「カルガモ」「オオバン」「カイツブリ」「キンクロハジロ」…など参加者同士で伝えあっていました。最後に、気になった水鳥をスケッチ(絵が苦手な方は色塗り)をしました。参加された方々の仕上がりは素晴らしかったです。地元の水辺に水鳥がいたら、今日の体験を思いだし、スケッチした水鳥がいたらいいな♪と思います。



■ 3月11日(土)昔の地図からびわ湖を知ろう！

わく探初めのプログラムで、古地図を主役にした内容は今までなかったので、スタッフもどんな時間になるのかわくわくしていました。

始めに、今のびわ湖はどんな形？と参加者各々で思い描きました。実際に地図を見て答え合わせをしました。次に昔のびわ湖はどんな形だったか？と展開しました。島本学芸員が江戸時代の古地図(実物)を参加者の目の前に広げてじっくり観察しました。参加者の気付きや疑問に答える形で当時の滋賀やびわ湖の様子を教えて頂きました。この古地図の縮小したものを用意し、びわ湖をトレースしました。手でなぞってみると、今はない内湖に気づきました。

最後にC 展示室「空から見たびわ湖」に移動し、航空写真で江戸時代と現代の滋賀、びわ湖を見比べました。島の大きさ(誇張)や川の流れの変化、昔の内湖の形が残っているところなど、古地図を手に読み解く時間は楽しい時間でした。



ほねほねくらぶ

(18) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 20名】

グループ担当職員: 中村久美子

【活動報告】

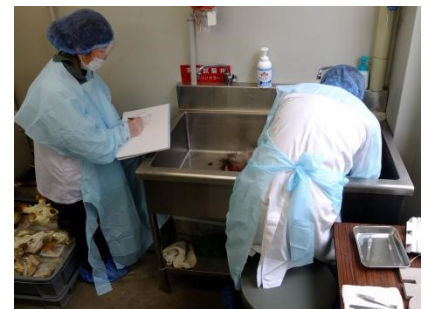
■1月28日(日) 参加者: 4名

ニホンザルの解剖、チョウザメの解剖行いました。

この日から新たにニホンザルの骨格標本作りにとりかかり始めました。

サルは人間と近い関係にあるので、そのため人とサルの間では他の動物に比べて病気などが感染しやすいので、標本作りも細心の注意を払いながら行う必要があります。

特に血液には注意を払わないといけないので、直接触れないように全身の防護服やフェイスガードなどを着用し、作業を行った場所や道具の消毒など、普段の活動よりも緊張感を持つての活動となりました。



▲ニホンザルの解剖とそのスケッチの様子

■2月4日(土) 参加者: 3名

ニホンザルの解剖、キツネの徐肉を行いました。

前回から始めたニホンザルの解剖ですが、皮剥ぎがほぼ終わり、全身の筋肉の様子が観察出来る様になったので、メンバーの方がその筋肉の付き方を勉強するためじっくりとスケッチしながら観察されていました。

解剖されている隣で観察しながらスケッチをし、時に書籍などと見比べ筋肉の名称やその筋肉がどこから始まってどこで終わっているのかを確認し、気付いた事や筋肉の方向などをスケッチに残されていたので、その熱心さを見習わなければいけないと感心してしまいました。

ニホンザルを解剖する機会はめったにない貴重な体験なので、しっかりと今後の糧となるような活動にしていきたいなと思います。



▲ニホンザルの解剖途中のスケッチ

■2月19日(日) 参加者: 6名

ニホンザルの解剖、テンの解剖、シロハラの仮剥製の制作、ナマズの解剖、キツネの徐肉を行いました。

■3月4日(土) 参加者: 4名

ニホンザルの解剖、シロハラの仮剥製の制作を行いました。

■3月19日(日) 参加者: 3名

ニホンザルの解剖、鳥の骨のクリーニング作業を行いました。

【活動予定】

・4月、5月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回の活動を予定しております。



(19) 緑のくすり箱

活動報告日の活動会員数(のべ) 31名】

グループ担当職員: 大槻 達郎

【活動報告】

■2月18日(土) 参加者: 10名

活動内容: 廃油石鹸作り(実習室2)

毎年実施している廃油石鹸作り。初めて参加するメンバーもいたので、基本の手作り石鹸(コールドプロセス製法)の説明や石鹸の歴史、苛性ソーダの扱い方、使うオイルの性質などを説明させていただきました。

ハーブや精油を入れて作る定番の石鹸の他に、今年は酒粕を入れた石鹸にも挑戦しました。鹸化せずに、分離してしまったものもありましたが、メンバーが持ち帰り、再度混ぜて丸めてみました。持ちかえった石鹸は、型だし後、切り分けて、1か月ほど熟成させてから使います。

【参加者の感想】

- ・初めての廃油石鹸作り、石鹸の歴史から化学の不思議まで学びながら、石鹸が作れることに感動しました。香りに癒され楽しい発見がいっぱいでした。成熟するのが楽しみです。
- ・今回も新しい試み、発見で進化した廃油石鹸作りになりました。
- ・手作り石鹸の量の関係をしることができ、勉強になりました。
- ・鹸化でどんどん変化していく様子がとても面白かったです。



■3月5日(日) 参加者:8名

活動内容:木のスプーン作り(生活実験工房)

毎年好評の木のスプーン作り。今年も生活実験工房の中川さんにご指導いただきながら、素敵な作品を作りました。初めてのメンバーもいれば、毎年参加して、年々薄いスプーンが作れるようになって上達しているメンバーもいるようです。スプーンの原料は、キハダの木使いました。とてもよい風合いのスプーンができました。

【参加者の感想】

- ・初スプーン作り、難しかったけれど、最初から創る過程を知ることができて無心になり頑張れました。
- また違う形にも挑戦したいです。大切に使いたいと思います。
- ・カレースプーン、とってもいい感じに出来上がり、感激しました。



■3月18日(土) 参加者:7名

■3月19日(日) 参加者:6名

活動内容:年度末総会(研究交流室)

2日間にわたって、年度末総会を行い、来年度の計画を立てました。来年度も楽しい活動になりそうです。皆様、よろしくお願いします。()…未定の活動

- ・4月 春の山菜摘み体験
- ・5月 お茶摘み体験/季節の植物でアロマウォーターを作ろう/和ハーブチンキ作り
- ・6月 手作り蒸留器作り
- ・7月 藍染め体験
- ・9月 (生水の郷針江見学)
- ・10月 コンニャク湿布(びわ博フェスがあったら実施)/(秋の山菜摘み体験)
- ・11月 小豆ピロー作り/ロールオンアロマ作り/季節の植物でアロマウォーターを作ろう
- ・12月 (薬草料理体験)
- ・1月 廃油石鹸作り
- ・2月 七味作り
- ・3月 木のスプーン作り/年度末総会

- 4月30日(日) ★時間未定 春の山菜摘み体験(甲賀市)
- 5月13日(土) 10:00~ お茶摘み体験(甲賀市)
- 5月16日(火) 10:00~ 季節の植物でアロマウォーターを作ろう(生活実験工房)
- 5月16日(火) 13:00~ 和ハーブチンキ作り(生活実験工房)



(20) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ担当職員: 今田 舜介

【活動報告】

■ 2月25日(日)09時30分～12時 参加者:6名 場所:琵琶湖博物館 生活実験工房
今後について話し合い
来年度の体制変更等に係る話し合いを行いました。

また、「虫架け通信」を発行し昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有しました。

[illegible][illegible]



LBSA 虫友会グループ

虫架け通信 No.53

2023年2月28日発行

※紙面：6ページ

※紙面：6ページ

※紙面：6ページ

※紙面：6ページ

昆虫豆知識 (49)

昆虫の中には群れを作出するグループがあります。いなかやクマノエビなどには群れを作出するグループがあります。いなかやクマノエビなどには群れを作出するグループがあります。いなかやクマノエビなどには群れを作出するグループがあります。



LBM虫日記 (16)

この年の四季に交るる虫ではないのですが、標榜の敷地内で得たものということで紹介しておきます。

ホウガタシロガタヤブガサバ *Changshaia albipennis*

この属は図説「大正」目のゴザウガの科に属し、図説ではあわめとも書いているがオスの顔は額状に生ります。一見顔はベッコウガザンに似ていますが、顔の模様はまったく異なりと異なります。とくに顔の縁飾が広く発達しています。ベッコウガはたいへん人気が高い昆虫では早稲から山梨県まで分布するといわれています。

[illegible][illegible][illegible]

ついでに「おかしな話」です。たしか、ドイツは日本と比べてかなり「おかしな話」が多い国で、雑誌は日本よりもおかしなもので多いですが、そのおかしな雑誌の数はたぶんありません。おかしなドイツの雑誌はたぶんおかしな話の多い国で、雑誌の「おかしさ」は日本よりも多いと思います。おかしな話の多い国はたぶんおかしな話の多い国で、雑誌の「おかしさ」は日本よりも多いと思います。おかしな話の多い国はたぶんおかしな話の多い国で、雑誌の「おかしさ」は日本よりも多いと思います。

雑誌「おかしな話」の編集者です。

最後に

- おかしな話の多い国はたぶんおかしな話の多い国で、雑誌の「おかしさ」は日本よりも多いと思います。おかしな話の多い国はたぶんおかしな話の多い国で、雑誌の「おかしさ」は日本よりも多いと思います。
- おかしな話の多い国はたぶんおかしな話の多い国で、雑誌の「おかしさ」は日本よりも多いと思います。おかしな話の多い国はたぶんおかしな話の多い国で、雑誌の「おかしさ」は日本よりも多いと思います。
- おかしな話の多い国はたぶんおかしな話の多い国で、雑誌の「おかしさ」は日本よりも多いと思います。おかしな話の多い国はたぶんおかしな話の多い国で、雑誌の「おかしさ」は日本よりも多いと思います。
- おかしな話の多い国はたぶんおかしな話の多い国で、雑誌の「おかしさ」は日本よりも多いと思います。おかしな話の多い国はたぶんおかしな話の多い国で、雑誌の「おかしさ」は日本よりも多いと思います。

雑誌「おかしな話」の編集者です。

【活動予定】

新型コロナウイルス等の影響で予定が不透明ですが、可能であれば1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行いたいと考えています。

昼夜問わず観察・採集などをして、滋賀県内の分布調査をしたいと考えています。
※都合により、新規会員の募集は当面見合わせております。(文責:梶田)

(21) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9 名】

グループ担当職員:林 竜馬



【活動報告】

■2月25日(土)10:00～12:30 頃 参加者:(会員)5名 博物館職員)林
内容:樹冠トレイルでツル植物(クズとキカラスウリ)の除去作業を行った。従来からあるタブノキ(解説版の前)の上半分が枯死しているので今後の推移を注視したい。2018年に植栽した樹木はアカガシ1本の成長が鈍いがその他は特に問題なさそうである。

■3月11日(土)10:00～12:30 頃 参加者:(会員)4名 博物館職員)林
内容:早春の日差しの中、琵琶博バス停～玄関～太古の森～遷移実験区～たんぼ～樹冠トレイルなどを散策した。草本ではセキショウ、カンスゲの一種の花を観察した。そのほかにオオイヌノフグリ、ハコベ、タネツケバナ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザの花が咲き、ハランの蕾が見られた。樹木はトサミズギ、コウヨウザンの花やミズナラ、カシワ、ナラガシワの落葉や芽を観察した。そのほかにサザンカ、マンサク、メタセコイア、ヤブツバキの花が咲きアオキ、セコイア、フウ、トチノキの蕾が膨らみ、ナワシログミの若い実が見られた。啓蟄を過ぎクビキリギスやナナホシテントウにも出会った。琵琶博の屋外展示はこれから春本番を迎えいろいろな花や動物を見ることができるので楽しみである。



- 1 セキショウ
- 2 カンスゲ類
- 3 トサミズキ
- 4 ハランの蕾
- 5 ヤブツバキ
- 6 マンサク
- 7 クビキリギス

【今後の予定】

◎3月25日(土)10:00~12:30頃 集合場所:栗東自然観察の森駐車場

内容:栗東自然観察の森の植物観察(雨天中止)

◎4月は検討中

行替 道天

(22) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ担当職員:由良嘉基・安達克紀

【活動報告】

新たな活動はありませんでした。

【活動予定】

3年あまりにもわたるコロナ禍で活動が停滞し、2019年以前に入会した会員はほとんど卒業してしまったので、もはや現役中高生の会員は時々研究相談に来る数名しか残っていません。再びの決起に向けて、仲間を集めていこうと思います。4月末のはしかけ登録講座で大々的に新会員を集め、夏に総決起集会を開催したいと思います。卒業生も含め、是非ともご参加下さい。

中高生で他のはしかけグループに参加している人は、ぜひとも琵琶湖梁山泊にもご参加下さい。他分野の研究をしている中高生の仲間たちと交流し、切磋琢磨しましょう。参加ご希望の方ははしかけ代表アドレスまで。大人のサポートメンバーも募集しています。



(23) サロン de 湖流

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:中川 信次

【活動報告】

■ 今後の活動方針について協議を進めようとしているところですが、今のところ特に進展はありません。

【活動予定】

■ 未定

【活動報告】

■ 1月12日(木) 9:20-12:00 晴 参加者 7名

1. 活動先: 東近江市五個荘石馬寺、垣見町

2. 調査目的:

能登川地域で伊庭内湖・大同川に流れ込む河川調査の一環で、瓜生川の源流にある石馬寺周辺を訪問し寺の由来、付近の水質の調査を行った。また、もう一つの水系で垣見町の街中を流れる鉢光寺川沿いにある湧出地点でも水質調査を行った。

3. 調査要旨:

(1) 石馬寺訪問と谷水の水質調査(東近江市五個荘石馬寺町)

在所奥の大門跡に石馬寺縁起発祥の古池「石馬の池」がある。ここからゆつくり約300段の石積み階段を竹の杖を頼りに上り詰めた所に臨済宗妙心寺派 御都織山 石馬寺(ぎよとさんざん いしばじ)の伽藍が広がる。推古2年(西暦594年)の聖徳太子建立以降、永禄11年(1634)織田信長による兵火にあったが、寛永11年(1634)徳川家光上洛にあたって、旧本堂が復興し現在に至っている。ご本尊十一面千手観世音菩薩立像(快慶作)はじめ多くの重文像も安置されている。安置されている重文像はいずれも一見の価値ありである。



□石馬の池



□石壁を流れる水



□同左の水の集水の池

庫裡横にある石庭の湖東流紋岩からなる崖を 少量であるがしみ出し伝い落ちる水が溜った池があり、この水が本堂横の池に導かれている。今回はこの水についても水質調査を行った。水温が気温に近似しており、湧水ではなく池に溜まる谷水と考えられる。水質としてはややアルカリ性を示した数値がえられた。また、この石馬寺の分岐階段より更に600段余り上りつめた頂上部に雨宮瀧神社があるが、今回はメンバーの体力の関係で入口の谷水取水に留めたが、雨宮瀧神社は推古天皇時代の創基で、降雨明神、雨明神とも呼ばれる水神信仰の神社である。この谷水はいずれも現在の東近江市伊庭町を経て琵琶湖に流れ入る瓜生川の源流となっている。



□雨宮瀧神社鳥居と参道



□参道横の水たまり



□谷水の取水作業中

(2) 鉢光寺川の川中に湧出している湧水調査(東近江市垣見町)

垣見町「はりよ橋」近くの鉢光寺川中流で結構な水量の湧出水場所がある。下記写真のように、鉢光寺川のコンクリート堤防の横池の川底に打ち込んだ2本のパイプから湧出していて、堤防の底から本流側に自然流入している。水は澄んでいて川底は藻の繁殖地と水が湧出していると思われる砂地が斑模様に分かれる。湧出水の水温は15℃で気温よりも高い。この鉢光寺川も下流で伊庭内湖を経て大同川放水路から琵琶湖へ流入している。



□ 鉢光寺川本流横の湧出水



□ 左写真の拡大



□ 本流川底の藻場と砂地

■ 2月9日(木) 10:00-12:00 晴 参加者 5名

1. 活動先: 日野町桜谷 村井方面

2. 調査目的:

日野町内の湧水地点調査は一度調査済みであるが、その後新たに得た情報に基づいて今回 妙楽長興寺跡と馬見岡綿向神社の2か所を追加で現地調査した。

3. 調査要旨:

(1) 日野商人について

近江の商人は江戸時代初期から八幡商人、日野商人、高島商人が登場し、明治以降には、湖東商人(五個荘商人、愛知川商人など)が登場する。日野町は江戸期の近江商人発祥の中心地で、家族を本宅に残し、全国で商った。その400年余りの歴史と商法は現代の経済社会に今も脈々と息づいている。すでに600年前 室町時代に椀市場の「日野上市」が成立しており、480年前には日野城下(=現在の町並み)が形成され、塗師町、堅地町なども配置されている。400年前には漆器産業が繁栄する中で、日野商人が椀行商人として漆器の大衆化に大きな役割を果たしていた。江戸市中などで仕入れた様々な小間物類と共に「掛け売り」を巧みに展開し、関東平野の旧農村部に「近江国日野椀商人」が足繁く通って商っていた記録が残っている。日野合薬(あわせぐすり・漢方薬)も日野商人によって全国に広められ、300年前から日野椀に変わる新興産業として発展。その頃に創製された「萬病感應丸かんのうがん」は日野合薬最大のヒット商品で生産が続いている。八幡商人が都会部の大型店商いが中心であったのに比べ、日野商人の行商活動は、関東平野で地方小規模店として広がった。多くの店が農産物を原料にした加工品や周辺住民の需要に見合った雑貨類の仕入れ・卸販売も行っていたようで、質屋・金貸し業を兼営する実態も見られた。(引用 日野町立近江日野商人館発行パンフレットより)

(2) 妙楽寺薬師堂(妙楽長興寺跡) 日野町桜谷(川原)の湧水。

日野町役場の交差点から北へ車で数km入った県道168号沿い、川原集落を右折した所の佐久良川上流谷筋にある。石段を含め境内一帯は掃除が行きとどいている。案内板によると妙楽長興寺は奈良時代の創建で、奈良興福寺荘園の公文所も兼ねていたが戦国時代の兵火で全山焼失、現在は薬師堂のみがひっそりと残る。ふもとの山道から境内へ48段の整備された石段の両脇に地藏さんと一石五輪塔が数多く置かれている。階段を登り切った左手にも無数の一石五輪塔が整然と並び、集落でお世話されている方が掛けられたのか比較的新しい涎掛けが多く掛けられている。中央でひと際目立つ大きな宝篋印塔は鎌倉時代後期の秀作と言われる。



□ 参道入口の石段



□ 一石五輪塔と薬師堂



□ 宝篋印塔は鎌倉後期の作

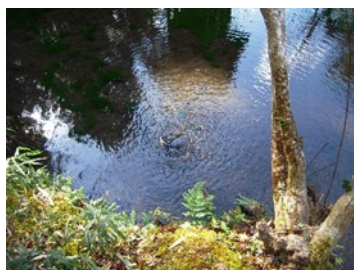
(3) 馬見岡綿向神社境内の湧水 日野町村井

ご祭神は天照大神の第2皇子 天穗日命(あめのほみこと)と天夷鳥命(あめひなとりみこと) 武三熊大人命(たけみくまうしみこと)を祀る。平安初期の造営で中世以降代々蒲生氏の庇護を受け、江戸時代は日野商人たちの崇敬を集め整備されてきた。

手水は隣接する井戸水をポンプUPする工事が最近復旧し、本殿右側の池には近くの山側から池の底にパイプで導かれ、水面が波打つ程、結構な水量で湧出していた。この湧出部の水と池から流れ出ている水の水質を測定した。いずれの水もほぼ同質の水系とみられる結果であった。水質はやや酸性気味で硬度が少し高い値を示した。



□ポンプ UP した手水

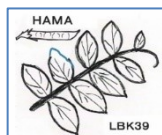


□本殿右の池底からパイプで湧出



□池から流れ出る水

執筆者 小篠



(25) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15 名】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

■2月7日(火) 9時30分～11時30分

天候:くもり 気温:9℃ 参加者:5名 今日の琵琶湖:水位-35cm

観察状況

- * 2ヶ月ぶりの活動日。対岸の山がうっすら見える。湖面はガラスのように透明で波もない。伊吹山がきれいに見える。風もなく穏やかな暖かい活動日。
- * 保護区内や周辺の枯れた松が処分されて、シンボルの1本松も伐採されていた。すっきりしたというか寂しい風景となった。
- * 保護区内に松の幼木が13本程度植えられていた。* 浜も保護区内もすっかり冬枯れして葉も枯れ砂地が目立つ。保護区内に松ぼっくりが一面に落ちている。

活動内容

- * ツルニチニチソウの撤去(前回拡大した保護区周辺)

海浜植物

- * ハマエンドウ : すっかり冬枯して砂地が目立つ。全体的に葉も茎も枯れている。浜側のロープの近くは松の枯れ葉と枯れたチガヤに守られ、葉も緑で大きく育っている。
- * ハマゴウ : 全体的に枯れて細い枝が目立つ。実も黒く地面に落ちている。
- * ハマヒルガオ : 見当たらない。



ハマヒルガオ



ハマゴウ



松が植栽されていた

■2月17日(金) 9時30分～11時30分

天候:晴れ 気温:8℃ 参加者:4名 今日の琵琶湖:水位-29cm

観察状況

- * 伊吹山がきれいに見える。風もなく穏やかな暖かい活動日。県から委託を受けてドローンで浜の調査をされていた。(調査員:浜欠けが相当に進んでいる)

活動内容

- * ツルニチニチソウの除草(前回の続き残った地下茎の除去)
- * 放置看板釘抜きと片付け整理。

海浜植物

- * ハマエンドウ : 前回と変わりなく、すっかり冬枯して砂地が目立つ。全体的に葉も茎も枯れている。(右の写真)



■3月7日(火) 9時30分～11時30分

天候:晴れ 気温:14℃ 参加者:6名

観察状況

*奥の山には雪が見えるが対岸湖西の山には雪がない。湖面は波がゆっくりと押し寄せている。風もなく春を感じる穏やかな暖かい活動日。雑草がすごい勢いで伸びてきた。チガヤはあまり目立たない。

活動内容

*ミーティング(来年度の計画・ボランティア募集について)

*保護区内除草(ハコベ・チチコグサ・カタバミ・スゲ等)

海浜植物

*ハマエンドウ : 保護区入り口あたりはすっかり冬枯して緑の葉が見当たらない。雑草がめだつ。しかしよく見ると、新しい茎ができて葉も見える。日光の当たる松の木の下や、浜側のロープの近くは松の枯れ葉と枯れたチガヤに守られ、葉も緑で大きく育っている。今回、駐車場側の一部を草の中で育て、他との違いを観測することにした。

*ハマゴウ : 全体的に枯れて細い枝が目立つ。実も黒く地面に落ちている。

*ハマヒルガオ : 葉も見当たらない。

定 点 観 測



今日の琵琶湖 水位 14 cm



ハマエンドウ



ハマゴウ

ハマエンドウ(新芽がきている)



3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(4月～6月)

はしかけさんが活躍するイベント情報(4月～6月)は下記のとおりです。

■「ちこあそ・4月(ちっちゃな子どもの自然遊び)」

【内容】博物館の森や田んぼで自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆっくりと過ごすちっちゃな子どもの遊び場です。

【日時】2023年4月19日(水)10時00分～14時00分

※事前申込みの上、10時～14時の間でご都合のよい時間帯に、生活実験工房にお越しください。

【定員】10組(先着順)

【申込期間】2023年3月19日(日)～2023年4月19日(水) ※ただし定員に達し次第受付終了

【申込方法】しがネット受付サービスまたは往復はがきで必要事項をお送りください。

■「里山体験教室(第1回)」

【内容】博物館を飛び出し、実際の里山で季節ごとの自然観察や里山遊び体験をしよう！※少雨決行

【日時】2023年4月23日(日)10時00分～15時00分

【定員】30名(定員を超えた場合は申込締切後に抽選)

【申込締切】2023年4月4日(火)

【申込方法】しがネット受付サービスまたは往復はがきで必要事項をお送りください。

※申込期間内にアクセスをお願いいたします。

※年間4回開催分一括申込(1回分だけの申込はできません)

■「あなたも描こうミジンコたちの絵」

【内容】ミジンコ作家 越智明美さんときれいなミジンコやプランクトンを見ながら、のびのびとクレヨンや水彩絵の具で描いてみよう。家族や友達と特別な一枚が描けるかも。

【日時】2023年5月5日(金・祝) 13時30分～1時間程度を予定しています。受付時間 13時00分～

【定員】5組20名(多数の場合は抽選)

【申込期間】2023年3月5日(日)～2023年4月24日(月)

【申込方法】しがネット受付サービスまたは往復はがきで必要事項をお送りください。

■「顕微鏡であのブッカブカが、見える見える超見える」

【内容】顕微鏡を使って、微小生物を詳細に観察してみよう

【日時】2023年5月6日(土)13時30分～15時00分

【定員】5組20名(多数の場合は抽選)

【申込期間】2023年3月6日(月)～2023年4月25日(火)

【申込方法】しがネット受付サービスまたは往復はがきで必要事項をお送りください。

■「生活実験工房 田んぼ体験 田植え」

【内容】生活実験工房の水田を利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、田植え作業を体験して頂きます。

【日時】2023年5月7日(日)10時30分～12時30分(受付時間 10時00分～)

【定員】20名程度(付き添いの方も含む。多数の場合は抽選)

【申込締切】2023年4月25日(火)

【申込方法】しがネット受付サービスまたは往復はがきで必要事項をお送りください。

※雨天中止

■「【わくわく探検隊】春の草花でしおりを作ろう！」

【内容】屋外展示で春の草花を採取した後、ラミネーターでオリジナルのしおりを作ります。色や形、名前などについて植物博士に教えてもらいます。

【日時】2023年5月13日(土)13時30分～15時00分

【定員】15名(先着)

【申込方法】当日受付(13時00分～) 受付は実習室2で行います。

※雨天決行

■「琵琶湖のプッカプカ微小生物を捕まえてみよう」

【内容】実際に琵琶湖から微小生物を採集して、その姿を顕微鏡で見てみよう

【日時】2022 年 5 月 14 日(日)10 時 00 分～12 時 00 分

【定員】5 組 20 名(多数の場合は抽選)

【申込方法】しがネット受付サービスまたは往復はがきで必要事項をお送りください。

※雨天中止

■「季節の植物でアロマウォーターを作ろう！」

【内容】季節の植物を使って、蒸留器でハーブウォーターを抽出します。抽出液を使ってルームスプレー等を作ってみましょう。

【日時】2023 年 5 月 16 日(火)11 時 00 分～12 時 00 分

【定員】5 名(先着)

【申込方法】当日受付(受付時間 10 時 30 分～) 直接、生活実験工房にご来場ください。

■「ちこあそ・5 月(ちっちゃな子どもの自然遊び)」

【内容】博物館の森や田んぼで自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆっくりと過ごすちっちゃな子どもの遊び場です。

【日時】2023 年 5 月 17 日(水)10 時 00 分～14 時 00 分

※事前申込みの上、10 時～14 時の間でご都合のよい時間帯に、生活実験工房にお越しください。

【定員】10 組(先着)

【申込期間】2023 年 4 月 19 日(水)～2023 年 5 月 17 日(水) ただし定員に達し次第受付終了

【申込方法】しがネット受付サービスまたは往復はがきで必要事項をお送りください。

■「【わくわく探検隊】プランクトンを見よう！」

【内容】マイクロアクリウムを探検します。プランクトンを顕微鏡で観察した後、それをモチーフにアート作品を作ります。

【日時】2023 年 6 月 10 日(土)13 時 30 分～15 時 00 分

【定員】15 名

【申込方法】当日受付(13 時 00 分～) 受付は実習室 1 で行います。

※雨天決行

■「須原魚のゆりかご水田オンライン観察会 2023」

【内容】野洲市須原にある魚のゆりかご水田から生中継でいろいろな生き物を紹介します!!どんな生き物と出会えるかは当日のお楽しみ! メッセージ欄を通じて質問もできます!

※雨天中止

【日時】2023 年 6 月 17 日(土)13 時 00 分～14 時 00 分

【定員】なし

【申込締切】なし

※オンライン配信 13 時 00 分から配信

■「ふらっと自然観察 in 湖西」

【内容】身近な自然のなかで、自然に触れる楽しさを体験したり紹介したりします。自然のなかで「ふらっと自然観察」を通じて自然と暮らしの知恵を楽しく発見する場です。

【日時】2023 年 6 月 18 日(日)10 時 30 分～12 時 00 分 (受付時間 10 時 20 分～)

【定員】15 名(多数の場合は抽選)

【申込期間】2023 年 6 月 6 日(火)

【申込方法】しがネット受付サービスまたは往復はがきで必要事項をお送りください。

※雨天中止

■「ちこあそ・6 月(ちっちゃな子どもの自然遊び)」

【内容】博物館の森や田んぼで自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆっくりと過ごすちっちゃな子どもの遊び場です。

【日時】2023 年 6 月 21 日(水)10 時 00 分～14 時 00 分

※事前申込みの上、10 時～14 時の間でご都合のよい時間帯に、生活実験工房にお越しください。

【定員】10 組(先着順)

【申込期間】2023 年 5 月 17 日(水)～2023 年 6 月 21 日(水) ただし定員に達し次第受付終了

【申込方法】しがネット受付サービスまたは往復はがきで必要事項をお送りください。

4. 生活実験工房からのお知らせ

春の訪れとともに、田んぼ体験行事が始まります。稲作作り体験では、5月～10月までの活動日が決まりましたので、お知らせします。時間を見つけて、体験活動へのご参加をよろしくお願いします。

工房の田んぼは部分的に湿気が多く、作業時に苦慮していました。そこで一筋の暗渠排水を施工してみました。周囲の排水路は河床が高いため、暗渠排水で集水した水をいかに排水するか課題は残っていますが、サイフォン構造を利用して電気エネルギーを使わずに排水できないか試行錯誤しているところです。



田んぼに暗渠排水を施工しました

【活動予定】

開催時間：10:30～12:30(受付 10:00～) 場所：生活実験工房
田植え、稲刈りについては、各自、長靴、着替え等をご用意ください。

- 5月 7日(日) 田植え
- 7月 30日(日) 昆虫採集
- 9月 3日(日) 稲刈り、はさ掛け(早稲品種)
- 10月 8日(日) 稲刈り、はさ掛け(晩稲品種)
- 12月 17日(日) しめ縄づくり
- 2月 4日(日) わら細工

担当:交流係

5. その他の事項

(1)はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合はグループ代表アドレスまでご連絡ください。なお、グループ代表アドレスは事務局(hashi-adm@biwahaku.jp)までお問合せください。

(2)名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(3)はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(4)はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。